

労に関して、退院後も現在も高率に訴え続けることは当然であろう。

次に、先行育児経験と悩み、苦労との関連では、上の兄弟が未熟児の場合、標準体重で生れた場合、および上の兄弟がいない場合の3グループの比較をした結果、退院後では未熟児のグループが困難の訴え率が低く、他の2つのグループの差はなかった。また、現在の困難の訴え率は全体としてかなり減少し、3グループ間の差も少ない。退院後、未熟児を育てるために、標準体重内で生れた子供の育児経験は母親にとってあまり役にたっていないようである。しかし、2才を過ぎれば、多くの母親が未熟児の育児経験者として成長している姿がうかがわれる。(昭和55年12月生れ、1,560gの母親の自由回答から「未熟児を育てている親の会、又は退院者OBのようなものがあって、横のつながりでいろいろ悩み、心配ごとなど相談しあえれば心強かったのではないかと思う。とくに0才の間は心配だった。もし、現在そのような要望があれば経験者?として相談相手になってもよいと思う。」)

次に、入院中の、退院してからの育児に関する指導と退院後の困難との関連についてであるが、ほとんどの悩み、苦労において入院中指導がなかったと回答したグループの方が訴え率が少ないという結果は、本調査の範囲ではこれ以上の説明はできない。推測すれば、退院後の育児が困難と思われるケースとそうでないケースとでは

育児指導の量や質が違うということも考えられるが、主要には、結果的に悩みや苦労の多かった者が入院中の指導をよく思い出し、忘れなかったということではないだろうか。昨年度、われわれが行なった、出生時体重1,000g未満の児をもつ母親の面接調査の結果でも、多くのケースが2才頃には子供は元気に成長し、不安が解消しており、入院中の指導の内容はほとんど忘れていた。

相談相手は、全体として子供の成長とともに減っていくが、体重の小さい者や先天異常と診断された層において、専門医を相談相手としている者が多く、この傾向は2才を過ぎても変わらない。

#### 〔おわりに〕

未熟出生児の育児上の困難は、出生後、特に発育や健康に係わる問題として表われるが、その多くは子供の順調な成長をみること(その時期は多くが1才半から2才頃と思われる)によって、あるいは合併症や発達障害が残らない限り解決していく。しかし、その間の0才から1才頃の母親の悩みや苦労は、標準体重で生れた子供の育児経験ではあまり参考にならず、おそらく、祖母の援助も通用せず、保健婦といえども一般的な育児指導であるかぎり母親としては納得できないような種類の不安や悩み、苦労として存在する。未熟出生児をもつ母親に対しては、特に0才～1才までは特別の育児に対する指導、援助の体制が必要と思われる。

## 乳児期の言語発達尺度化の試み

伊豆通信病院小児リハビリテーション科 森 永 良 子  
立 川 和 子  
松 田 素 子  
左右田 雅 子  
上 村 菊 朗

私達は、未熟児の発達予後をLD・MBDとの関連でとらえたいと考える。

LD・MBDは総合的な発達は正常範囲に入るので、正常児の中で生活し、教育を受け、境界児、学業不振児、落ちこぼれとよばれてきた子ども達である。

このような子ども達は、いわゆる精神発達遅滞とはあきらかに異なる。認知構造のアンバランスより生ずる言語機能の問題が一つの特性である。

LD・MBDと未熟児については報告も多い。(Hertzig, M. E., 1981)

## ことばの記録

記入者\_\_\_\_\_

記入場所\_\_\_\_\_

氏名\_\_\_\_\_ ( 年 月 日生) (男・女) 第\_\_\_\_\_子

○: 活発にする

△: 時々する

×: しない

年 月 日	年 月 日	年 月 日	項目 番号	問 題 項 目
1 週			1—0	(A) 泣き声
			2—0	(A) 声を出す
1 ヶ 月			3—1	(A) 泣く以外の声を出す
			4—1	(P) よびかけに反応する
2 ヶ 月			5—2	(A) クークーとのどをならすような声を出す
			6—2	(A) 発声のほとんどは泣き声
			7—2	(P) 音に関心を持つ
3 ヶ 月			8—3	(A) 母音に近い音「オー」「アー」「エー」などをのどから出す
			9—3	(A) すみり泣く、喜こんで笑う、のどでゴロゴロいう、クークー笑う、悲鳴をあげる
			10—3	(A) 泣くことが少なくなる
			11—3	(A) 一人で声を出して楽しむ
			12—3	(A) 母親のほゝえみや話しかけに声を出して応ずる (vocal-social 反応)
			13—3	(P) 声をきく態度 (声のする方をみるなど) がみられる
4 ヶ 月			14—3	(P) 話しかけを理解する
			15—4	(A) クークーという声に速さなど変化が出てくる、15~20分続けるようになる。ひとりごとを始める。話しかけるような声を出す
			16—4	(A) 話しかけられると、ほゝえんだり、悲鳴をあげるような声を出してのどをならす
			17—4	(A) 時には30分位の間、喜こんで、声を出している (クックッと笑ったりヒイヒイ声を出したり、ゴロゴロのどをならす。くすくす笑ったり、にこやかに笑う)
		18—4	(A) いくつかの音をまねる	

年 月 日	年 月 日	年 月 日	項 目 番 号	問 題 項 目
5 ケ 月			19— 5	(A) 母音のような音を出す(「エー」「アイ、エイ」「アー」「オー」), また「ブ」「ド」「ル」「ム」など子音を出す
			20— 5	(A) おもちゃを見たり, 指を見たりして声を出す
			21— 5	(A) 人の注意をひくために, 話しかけるように, 声を出す
			22— 5	(A) 人の口元を注意して見る, 話しかけると, まねるように声を出す
			23— 5	(A) 音や抑揚をまねようとする
			24— 5	(P) はっきりと話しかけに反応する(顔を向ける, 話しかける, みつめるなど) 自分の名前がわかるように思える
6 ケ 月			25— 6	(A) 母音の間に子音を入れて, 複雑な話し方をする, 強弱・高低・速さなどの変化がつく
			26— 6	(A) 声のコントロールができるようになる
			27— 6	(A) かたことが話しかけや他の音刺激で活発になる, 特に女性の声に反応する
			28— 6	(A) 喜び, 不満を声であらわす(不満な時は, うなったり, うれしい時はクークーいったり, ゴロゴロのどをならしたりする, 興奮すると, 悲鳴のような声をあげて, 全身で反応する)
			29— 6	(P) イントネーションや話しかけに対応した反応をする
7 ケ 月			30— 7	(A) 母音, 子音を入れて発声。4つ以上の発声をする(マ, ム, ダ, ディバなど)
			31— 7	(A) 一息でいくつかの音を出す
			32— 7	(A) 音や, 連続した音節をまねようとする
			33— 7	(A) ダダ(パパ)とママをいうことがある
			34— 7	(P) 自分の声や人の声をきく
8 ケ 月			35— 8	(A) 何種類もの音や, かたことをいってひとりあそびをする。かたことの中に模倣した音節が入る
			36— 8	(A) 満足感を声に出す
			37— 8	(A) 口の動きや顔の動きをまねしはじめる
			39— 8	(A) 2音節で, つぶやく(アーウー, ウンウー, エーエンなど)物に音まねをして名前をつけることもある。また, パパ(ダダ)ママを固有名詞として使うこともある
			40— 8	(P) 聞きなれない音に反応することが多くなる(自分の名前, 電話など)聞きなれた話しかけに注意を向ける, いくつかの話しかけを理解する

年 月 日	年 月 日	年 月 日	項 目 番 号	問 題 項 目
9 ケ 月			41—9	(A) イントネーションの型がはっきりする
			42—9	(A) 緊張や感情を発声で表現する
			43—9	(A) 咳、舌打ち、「シー／＼」という禁止の音などを模倣する
			44—9	(A) 意味をもった発声をする。ダダ(パパ)タータン、ママなど、特定の人と結びつける。いくつかの音をつないで、くり返し発声することもある
			45—9	(P) 会話やうたを聞く
			46—9	(P) 「ダメ」「メー」などのことばがわかることもある
			47—9	(P) 簡単な指示を理解して喜ぶ
			48—9	(P) 「イヤイヤ」「ニギニギ」「バイバイ」などの動作をする
		49—9	(P) ことばだけの話しかけに反応する	
10 ケ 月			50—10	(A) ことばをジェスチャーに結びつけて理解する(バイバイ、コンニチワ、ダメなど)
			51—10	(A) 質問に答えるように、一つのことばを何回もくり返して発声する
			52—10	(A) ママ、ダダ(パパ)以外に1～2語話すこともある
			53—10	(P) 聞きなれたことばに関心を示す(言語指示に従う、～を頂戴など)
11 ケ 月			54—11	(A) 意味の通じない話しかけが多いが、いくつかは理解できる
			55—11	(A) 話しかけの時に、ことばよりも、表情やリズムをより正確に模倣する
			56—11	(A) ママ、ダダ(パパ)以外に2～3語話す
			57—11	(A) 長い間単語をつぶやいている
			58—11	(A) 意味のあることばを入れて話をする、1つの単語で意味を表現することがある
			59—11	(P) ことばを区別して理解する
		60—11	(P) 物の名前としてのことばを理解する。ヒコーキ→空をさす、ワンワン→うなるなど	
12 ケ 月			61—12	(A) イントネーションが正しくなる、ことばとしての機能をもった発語(バカ、ダメなど)がみられる
			62—12	(A) 知っている単語を繰り返して話す、ママ、ダダ(パパ)以外に2～8語を話す
			63—12	(A) 短かい文のかたこと
			64—12	(P) 物の分類のためのことばを使い始める(コーチ→ヒコーキ、パチン→電気など)

この調査は、現在の子供達の発達を考える参考にしようとするものです。お子様の生後6ヶ月より2才6ヶ月までの行動について、下の質問にお答え下さい。

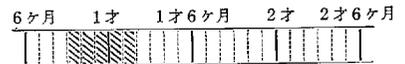
名前 \_\_\_\_\_ 生年月日 昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 男・女

続柄	年齢	性別	利き手
父			右・左・両
母			右・左・両
兄弟1		男・女	右・左・両
兄弟2		男・女	右・左・両
※			右・左・両
			右・左・両
			右・左・両

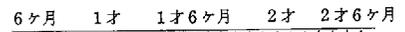
※同居している家族（祖父母、叔父、叔母）も書いて下さい。

以下の各質問のはい、いいえのいずれかを○でかこんで下さい。はいに○をつけた方は、その時期に斜線をひいて下さい。

答の例 人見知りがありましたか。その時期はいつ頃でしたか。 (はい)・いいえ



上記のように、人見知りのあった時期を斜線で示して下さい。



① たべものの味や固さに敏感で、好き嫌いのひどい時期がありましたか。

はい・いいえ

①

② ミルクを飲まない、たべものをたべないなど食事の問題で困った時期がありましたか。

はい・いいえ

②

③ たべもの以外のものを食べて困った時期がありましたか。〔口の中に入れるだけでなくたべてしまう〕(土・砂・クレヨン・セノイ・ゴミ・紙きれ・その他) ( ) の中で、あてはまるものに○をつけて下さい。

はい・いいえ

③

④ ねつきが悪い、すぐ目をさます、夜泣きをするなどの睡眠上の問題がありましたか。

はい・いいえ

④

⑤ 昼間と夜をとりちがえて困った時期がありましたか。

はい・いいえ

⑤

⑥ 人見知りがありましたか。その時期はいつ頃でしたか。

はい・いいえ

⑥

⑦ 母親のあとばかり追いかけて、一時も母親から離れないで困った時期がありましたか。

はい・いいえ

⑦

⑧ 視線が合わないで困った時期がありましたか。

はい・いいえ

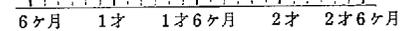
⑧

⑨ 特定のものにこだわって、いつまでも同じことばかりして、困った時期がありましたか。

はい・いいえ

⑨

(水あそび、椅子をまわす、扇風機・洗濯機・グルグル回るものを並べる。その他)



( ) の中であてはまるものに○をつけてください。

⑩ 同じ動作を繰り返し呼びかけてもやめようとしな  
いで困った時期がありましたか。

(手をヒラヒラさせる, 体を上下左右に動かす, 頭を  
うちつける, 机などを叩く, その他)

( ) の中であてはまるものに○をつけてください。

はい・いいえ

6ヶ月	1才	1才6ヶ月	2才	2才6ヶ月

⑩

⑪ 不安が強く, その理由がわからないで大変に困った  
時期がありましたか。

(特定の音・特定の場所・動物・その他)

( ) の中であてはまるものに○をつけてください。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑪

⑫ 動きが多く, じっとしていないで大変に困った時期  
がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑫

⑬ いつもぼんやりして動きが少なく気になった時期が  
ありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑬

⑭ 人に呼ばれても, 無関心で困った時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑭

⑮ ひとりごとや意味のないことばをしきりに口にして,  
心配になった時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑮

⑯ オームがえし〔相手のいったことばをそのままいう〕  
で話した時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑯

⑰ 一度ことばを話すようになったあと, まったくこと  
ばを話さなくなった時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑰

⑱ 人の話が理解できるのに, いつまでも話をしません  
でしたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑱

⑲ どもった時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑲

⑳ 発音が不明瞭で話がよくできずに心配した時期があ  
りましたか。〔おかしなよくよう, ことばの一部だけ  
を発するなど〕

はい・いいえ

--	--	--	--	--

⑳

㉑ 転びやすくて, 困った時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

㉑

㉒ 手さきが不器用で心配した時期がありましたか。

はい・いいえ

--	--	--	--	--

㉒

㉓ 初めて, 意味のあることばを話したのはいつ頃でし  
たか。

(      才      ヶ月ごろ )

㉓

㉔ 初めて一人で歩いたのはいつ頃でしたか。

(      才      ヶ月ごろ )

㉔

㉕ きき手はどの手ですか。もし両手を使っていたら,  
その時期はいつ頃まででしたか。

右・左・両

6ヶ月	1才	1才6ヶ月	2才	2才6ヶ月

㉕

現在, お子様について困っている問題がありましたら, 具体的にお書きください。

表 3

	正 常 N=53		自閉・MBD N=21		精神発達遅滞 N=10						
1	7	13.2%	1	4.8%	0	0%	} PICA				
	8	15.1	4	19.0	2	20					
2	4	7.5	1	4.8	1	10		} 睡 眠			
	5	9.4	1	4.8	1	10					
3	4	7.5	5	23.8	3	30		} 人見知り			
	2	3.8	7	33.3*	5	50*					
4	6	11.3	5	23.8	1	10		} 視 線			
	3	5.7	5	23.8	4	40*					
5	4	7.5	1	4.8	0	0		} こだわり			
	0	0	2	9.5	2	20					
6	25	47.2*	2	9.5	5	50		} 常動行動			
	5	9.4	1	4.8	3	30					
7	12	22.6	0	0	0	0		} 多 動			
	13	24.5	1	4.8	1	10					
8	0	0	8	38.1*	2	20		} ぐ ず			
	0	0	14	66.1*	4	40*					
9	1	1.8	3	14.3*	3	30		} よびかけ			
	4	7.5	10	47.6*	2	20					
10	0	0	2	9.5	2	20		} 独 語			
	0	0	5	23.8*	2	20					
11	2	3.8	3	14.3	2	20		} 言語の消失			
	1	1.8	4	19.0	3	30					
12	5	9.4	9	42.9*	1	10	} 言語の消失				
	9	17.0	17	81.0*	4	40*					
13	0	0	1	4.8	2	20		} ぐ ず			
	0	0	2	9.5	4	40*					
14	0	0	8	38.1*	1	10		} よびかけ			
	0	0	14	66.7*	2	20					
15	0	0	1	4.8	1	10		} 独 語			
	0	0	4	19.0*	1	10					
16	8	15.1	0	0	1	10		} 言語の消失			
	6	11.3	1	4.8	1	10					
17	0	0	4	19.0*	2	20			} 言語の消失		
	0	0	7	33.3*	3	30*					
18	2	3.8	0	0	0	0			} 言語の消失		
	4	7.5	4	19.0	1	10					
19	0	0	0	0	0	0				} 言語の消失	
	0	0	0	0	0	0					
20	1	1.8	1	4.8	0	0				} 言語の消失	
	0	0	1	4.8	1	10					
21	5	9.4	1	4.8	3	30					} 言語の消失
	5	9.4	3	14.3	4	40					
22	0	0	0	0	1	10					} 言語の消失
	0	0	0	0	1	10					

{上 1才6ヶ月まで  
下 1才6ヶ月から

High risk baby の可能性をもつ未熟児が広い意味で知能の発達が正常といわれても、学童期になると、認知能力のアンバランスから生ずる学習上の問題をもつ場合がある。

その結果、総合された知能指数 (IQ) に比較して学業成績が上らない、いわゆる学業不振の症状を示すようになる。

学童期にこのような問題をもつ、LD は、幼児期にことばの発達のおくれを示す例が多い。すでに報告したが、伊豆通信病院の LD 105 名中 68 例(60%)に言語発達遅滞の既往がみられた。

私達は、幼児期に知的には高いレベルをもちながら言語発達遅滞を示す自閉、MBD の乳児期の行動について調査をおこなった。

MBD、自閉の幼児は、運動発達に障害をもたないものが多く、乳児期より経過観察出来る例が少くない。そのほとんどが、1才を過ぎ、言語発達遅滞によってはじめて、問題とされる。

乳幼児期の行動25項目の調査の結果は別紙の通りである。

対象児は正常児53名(♂28, ♀25)、MBD・自閉21名(♂17, ♀4)、精神発達遅滞10(♂5, ♀5)である。

1才6ヶ月までに、MBD・自閉、精神発達遅滞グループと正常児に差の認められた行動は、次の通りであった。

対人関係……人見知りなし  
視線があわない  
言語……ことばの消失  
よびかけに無関心  
問題のある行動……執着  
きき手(左・mix)

この調査の結果より、対人関係、言語の問題は、乳児期の理解言語に関連する項目であることを知った。

発達検査、知能検査は、客観的な評価を重んじるため、

言語は、表出言語に重点がおかれてきた(MCC ベビーテスト、乳幼児質問紙検査、他)。乳児期は、表出言語のまだない時期であるために、乳児期の言語の検査はほとんどないといえる。

最近のLDの理論的な背景になっている臨床言語心理学は、特に、表出言語以前の理解言語を言語能力の基礎と考えている。十分な理解言語の発達がないと、表出言語の発達をゆがめ、認知能力に影響をあたえると、Myklebust, H. R., (1967) らは述べている。

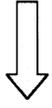
私達は、理解言語の発達を観察したいと考え、Caplan, F. の乳児期の発達尺度の言語発達を参考に日本語の乳児期の理解言語の尺度化を試みた(別紙参照)。

第1週から12ヶ月まで64項目を、自分からの働きかけ(A)と、他からの働きかけへの対応(P)の二つの角度より観察をおこなう。

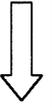
1ヶ月から12ヶ月までの63名の母親に調査用紙を配布した結果、母親の観察態度が一定でなく、調査の信頼性に問題をもった。特に、はじめての子どもをもつ母親は、基準が把握出来にくく、主観的な観察が多くみられた。以上より、調査は、面接により、具体的な行動をききながら、時には、面接者の観察を加わえておこなう方法をとっている。

今迄、乳児期初期の言語反応は、あまり重要視されてこなかったが、18名の3ヶ月までの乳児は、調査項目に反応を示めている。(P)反応は、母親が積極的に働きかけないと反応も少くない。母親が働きかけをおこなうと早期から(P)反応も多くなる傾向がみられるので、観察とともに指導に役立つことを経験している。

未熟児出生児の中には、母子分離による、(P)反応が少くない乳児も多いと考えられる。乳児期の(P)反応が、その後の言語発達にあたえる影響は、今後の経過観察と、資料を積み重ねることにより明らかにされると考えている。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



私達は、未熟児の発達予後を LD・MBD との関連でとらえたいと考える。

LD・MBD は総合的な発達は正常範囲に入るので、正常児の中で生活し、教育を受け、境界児、学業不振児、落ちこぼれとよばれてきた子ども達である。

このような子ども達は、いわゆる精神発達遅滞とはあきらかに異なる。認知構造のアンバランスより生ずる言語機能の問題が一つの特性である。

LD・MBD と未熟児については報告も多い。(Hertzog, M, E., 1981)